縁くらべ初作
二編上
遊仙窟
春雨
へ13
3016
3
京師楊豊國画
了志の意
二編下
へ13
3016
4

遊仙窟

書雨

緑亭川柳作

二編上

へ13
3016
3

へ13
3016
3

未新板

遊仙窟

春雨草紙

馬琴こと
山口屋板

緑亭川柳作
一陽斎豊国画

遊仙窟と外題を附れど仙家に寄する趣向もなく張志和が舟とせる蓬ヶ屋と名付て李白百りゝと考へる彭祖が菊の露も種さへなければ桃兒仙角仙詮方なく盧敖が亀をば懐首にして倩天地の戯場と知らぬ霞と喰ひ虹を呑飛わたるのゝ仙人れば粟飯炊間の暮の世ぶ曾孫が孫なる銭さへあれば仙界人則爰なるべし。夫神銭の妙なるハ足なくして猪牙を走り翼なくして番日であせ思ふ江へ麻姑のるれ届が如く自由自在左慈がまゝに似もそなと扣ハ座敷へ先さ鱚も出尚乃ふ者濃汁ふハ琴高頗る粥ヲ食て出て能七情を動せ張果も瓢と捧てや紙べ。されば仙境好ふたらぎと鐵拐をねどロヶ出次第。烈子が風の根ヲ雲ヶ江ふるき作意ハれも仙さを替と二編を続ク。初平が打出を未の春紙を半丁汚て述る

弘化四年丁未孟陽發行

緑亭川柳

中ふ行

つぎの巻

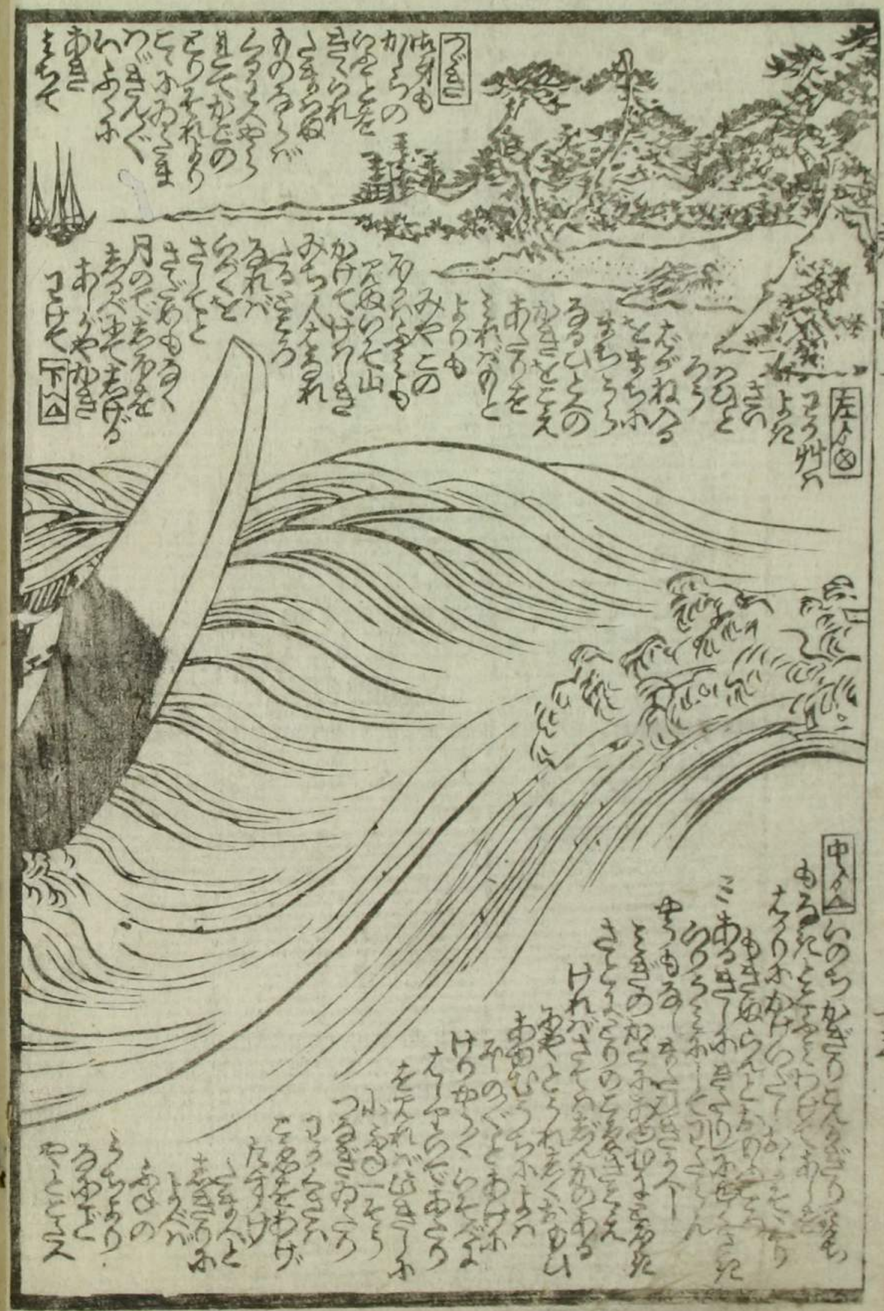
つぎの巻

神傳
秘方
油藥
祖香
錦耕堂製

一貫代
四十八銅
二十四銅

へ13
3016
4

へ13
3016
4
特



つぎ

らーふつまつきまのわかされく
あいさるらーられるのかそのぬくさ
本もろきさてくあまの小あもてこそく
られてのめやものふーんけおろっーき
くさのそおくてうこそろとるれむすい
におそきてむひそぢろうくーき
ひきとろとつきあでたきえうけ
らでーくろのあらびこそされども
たあまあ一ねんみたーにだーるころ州を
かちくさうりもうこめーやあろうろ
しいくこくらくこのあーまとこれや
つけよらびふくけるころのるやこのもう
とぎてもかぎろるまふけばくくく
ちろぬらんこづまるきこのくろしあり
山おこのこのみこれぐこうあげて
らのくもうるきこあいらくれ州ふ
そへどるらさかそせぞたーこそず
こらふをくはのめのぐろひこもを
かまこことのそぞく

つぎのあとに

けがとまぎこあこそも
ちこやあーこつもの
ぬこえ山こえころ
さえかえたあ川の
州をつくり州を
のろとてあらるまを
水ちてやく
こそのあうけれ

きちけ人の
あをみれさと
るれまーころをか
るまのりこらふのめで
こあうでらーの

あのー人ァ
きのこたろう
らーでらァ
からーも
きちけ人ふ
ゆーべ
あんこだんべ

るけたこちら
をあちぞ九
つれて上の
日のタぐれふ
あづのーき
やふやどうを
りこあまこやくこらふ
きーれとあるのあここのあらぬまこい
そのよこうスかこそろーてーかひそたのあろし
名るれいらたのまりてこそろとおろこあよるも
あろまこいてこともたちいこどーうこそよこて
あるこーふあこ山ふけかそこやタぐれどた
るれがいうこいせんこかりひーあまここーそー
くこのいそりのありけれいこも
ちろいーのそこりこたのここよつもと
ちのくこうろうるれがわのりもやこう
きそこやーもあけろるこきこと人
ドふ人こうふきこうこてここそて
きもどけーこまこい人のこまいべた
こころるこうぬふいこるる人こるまこい
かくこやいこうまるここそこらまい
ちつこそとこぶのけまこだこーころ
かまこいろかむろひこれもくも
るきこまこ人くるまこいはタ
らろこけあーこぶこれをこてふ
おきそこここーこまこーこいられよ
タふこうのここそーこのこうこと
をもいころこどうこと

つぎ人

弘化四年丁未孟春新板目録

遊仙窟春雨草紙 初編 緑亭川柳作 二編 一陽斎豊國画

新撰画本柳樽 三編 緑亭川柳撰 溪斎英泉画

列女百人一首 袋入 緑亭川柳輯 葛飾卍老人画 一冊 一陽斎豊國画

新編柳樽 全冊々 初編より九編に出来 餘編近刻

英雄百人一首 袋入 緑亭川柳輯 一冊 五雲亭貞秀画

東都書肆 馬喰町二丁目 山口屋藤兵衛 版元